

クリニカルパスを活用した一括オーダーでの効果

梶原 陵子¹⁾，長尾 真人¹⁾，遠藤 裕明¹⁾
小嶋 裕美，関谷 千尋，秦 温信

札幌社会保険総合病院，1)医事課

従来より当院ではクリニカルパスを用いてオーダーする際、個々の指示をそれぞれにオーダーリングシステムに入力する必要があり、時間的なロスのみならず安全管理の面より、一括オーダーによる入力が急がれていた。今回われわれはクリニカルパスをオーダーリングシステムにリンクさせ、一括して入力出来るよう試みた。その結果14疾患まで完成し、業務の効率化が得られた。

キーワード：クリニカルパス、セット検査、オーダーリングシステム

はじめに

現在、当院では67疾病のクリニカルパスが完成している。しかし、それらのパスを用いてオーダーする際、個々の指示をバラバラにオーダーリングシステムに入力する必要があり、時間的なロスのみならず安全管理の面より、一括オーダーによる入力が急がれていた。

平成14年1月に院内のオーダーリングシステムが、数多くの項目を一度にオーダーできる、新システムに変更されたことに伴い、クリニカルパス上のオーダーを一括して入力そして、保険請求、レセプト作成まで一連の作業となるよう取り組んだ。その結果、オーダーミスやコストもれの皆無、業務の効率化が得られたので報告する。

対象と方法

オーダーに関するセット化小委員会を院内に設置し、既存のクリニカルパス小委員会と連携して、比較的バリエーションが少ない14パスに、検査、投薬、注射、処置など医事請求にかかわる診療行為全てをセットとなるよう試みた。

さらに、セット化に伴い、その前後におけるコンピューターによるオーダー時のクリック回数および所要時間を検討した。

結果

当院に導入した新オーダーリングセットの機能上一度にオーダーできる個数に限界があるため、内容などにより何群かに分けて入力可能となるようにした。その結果14パス全てセット化に成功した。ただ、今回はそのなかで肝炎疾患の「インターフェロン治療」、膠原病患者の「入院指示」、がん患者の「化学療法」の3パスをとりあげ、オーダーにかかる時間、オーダーによるクリックの回数、保険請求について報告する。

1. 肝炎疾患の「インターフェロン治療」

入院期間を14日間とし保険請求にかかる検査・注射・投薬・放射線等を整理し、それらの行為をまずA・B・Cの3群に分け、各セットをオーダーリングシステムに設けた。さらに、パスのタイトルにそれぞれA，B，Cの記号を付記し、入院日に併せそれぞれのセットを展開させ入力するだけで良いこととなった。(図1-1)(図1-2)

2. 膠原病患者の「入院指示」

膠原病科は科の特異性から一般のスクリーニング検査のほかに特殊検査を多く含むため、一括オーダーでセットを組み、入力専門の医事課員によるクリック回数を減らした(図2)。

3. がん患者の「化学療法」

標準体重にあわせて抗がん剤の「容量」を決めておき、第1日目から終了日までをセット化し

日付	入院	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	
達成目標 * 疾患の理解ができて治療の受け入れができる * 発熱時速やかに対応が受け入れられることができる								
問題 #1 疾病、治療に対する不安 #2 治療の副作用								
検査	<input type="checkbox"/> Aa2 <input type="checkbox"/> インターフェロン <input type="checkbox"/> F1+III, FDP <input type="checkbox"/> 腫瘍X-P (正誤) <input type="checkbox"/> 腫瘍X-P (立・臥)	<input type="checkbox"/> プロカネオ (注射前)	<input type="checkbox"/> CBC <input type="checkbox"/> LFT <input type="checkbox"/> SKd <input type="checkbox"/> 検尿			<input type="checkbox"/> CBC <input type="checkbox"/> LFT <input type="checkbox"/> SKd <input type="checkbox"/> 検尿		
治療		<input type="checkbox"/> ポルテンap (50mg) <input type="checkbox"/> フェロン(IM)						
観察	Bp P KT 食欲 倦怠感 不眠	Bp P KT 食欲 倦怠感 不眠	Bp P KT 食欲 倦怠感 不眠	Bp P KT 食欲 倦怠感 不眠	Bp P KT 食欲 倦怠感 不眠	Bp P KT 食欲 倦怠感 不眠	Bp P KT 食欲 倦怠感 不眠	Bp P KT 食欲 倦怠感 不眠
諸病	A	B	B	C	B	B	C	
措置	入院指示							
検査	院内検査							
入院	可							
説明	<input type="checkbox"/> 入院時オリエンテーション <input type="checkbox"/> 治療の説明(パンフレット使用) <input type="checkbox"/> 教育 <input type="checkbox"/> アナムネ一括採取 <input type="checkbox"/> 入院診療計画書							
バイアス	有無	有無	有無	有無	有無	有無	有無	
サイン	<input type="checkbox"/> 日 <input type="checkbox"/> 準	<input type="checkbox"/> 日 <input type="checkbox"/> 準	<input type="checkbox"/> 日 <input type="checkbox"/> 準	<input type="checkbox"/> 日 <input type="checkbox"/> 準	<input type="checkbox"/> 日 <input type="checkbox"/> 準	<input type="checkbox"/> 日 <input type="checkbox"/> 準	<input type="checkbox"/> 日 <input type="checkbox"/> 準	

図1-1 インターフェロン治療クリニカルパス(医療者用)

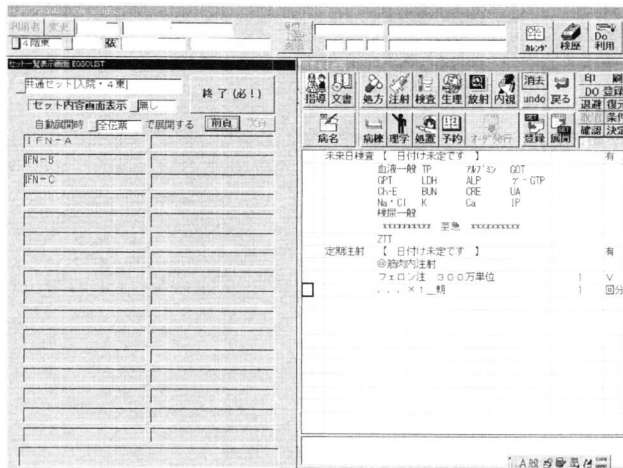


図1-2 肝炎患者の「インターフェロン」

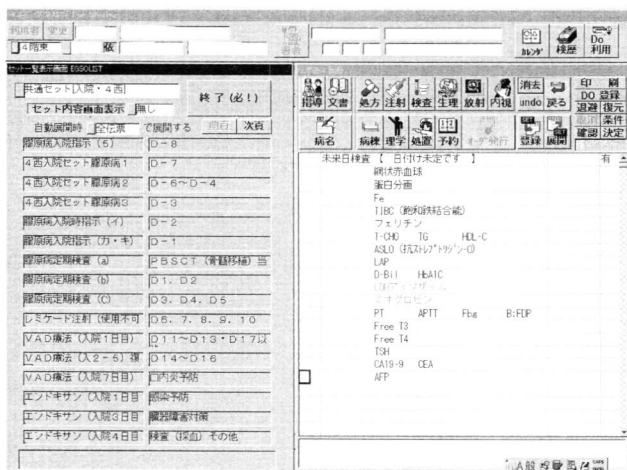


図2 膠原病患者の「入院指示」



図3 がん患者の「化学療法」

「容量」の部分のみを訂正して入力することとした。(図3)

4. 入力時のクリック回数および時間

入力専門の事務員5人が「インターフェロン治療」および膠原病患者の「入院指示」等について今回作成したセット検査を活用した場合、活用しない場合でクリック回数を検討してみたところ、クリック回数はほぼ2~5分の1に減少された。

またオーダーに係わる時間については個人差も大きかったが、それでも全員がそれぞれ5分から20分程度短縮することが出来た。さらにオーダーのもれが全くなり、適切な保険請求につながるなど、業務の確実性と効率化が図られた。

考察

オーダーリングシステムを有効利用し、クリニカルパスとオーダーを効率的にかつ確実にリンクすることで、医療の安全、質向上、標準化等につながり、多くの患者様に安心して治療を受けていただける結果を得た。加えて、労働時間の短縮や請求漏れなど病院経営にも大きく貢献できた。現在当院はフルオーダーで稼働しているが、処置の一部や手術などにはまだ伝票使用の診療行為もあるため、すべてのパスをオーダーリングシステム用にセット化し得ていない。しかし、クリニカルパスの医療における有用性を考えると、パスは一層広く活用されていくであろうだけに、今回行ったわれわれの検討は今後厳しい医療の中で大きな役割を果たしていくことになるであろう。事実このような検討は山根ら¹⁾や池上ら²⁾の報告にもあるように、今後広く行われていくであろう。

まとめ

今回われわれはクリニカルパスをオーダーリングシステムにリンクさせ、一括して入力出来るよう試みた。現在14疾患まで完成したが、全て有用な役割を果たしている。しかし、パスには組込まれているが、セット化出来ない処置、食事の変更、指導・管理料、手術などの問題がまだ残されており、今後はそれらの行為もセットに組込ませ、すべての診療行為の一括オーダーをめざし検討をかさね、さらなる業務改善に努めていきたいと考えている。

文 献

- 1) 山根 哲郎、岡野 晋治、大友 典子、ほか：
オーダーリングシステムとの連携によるクリティカルパスの運用. 医療マネジメント学会雑誌
3 : 440-443、2003
- 2) 池上 正樹：クリニカルパス利用による医事業務の有効活用を図る. 医療経営最前線医事業務
編 11 (227) : 12-20、2004

The effect of collective ordering that utilizes clinical path

Ryoko KAJIWARA¹⁾, Masato NAGAO¹⁾, Hiroaki ENDOU¹⁾
Hiromi KOJIMA, Chihiro SEKIYA, Yoshinobu HATA
1)Hospital Affairs Section, Sapporo Social Insurance General Hospital

In the past, in our hospital, when using a clinical pass to make an order, we have inputted individualized instructions separately into an ordering system. To minimize loss of time and from a safety perspective, we have been hurrying to facilitate orders that are done all at once. Now, we have managed to link the clinical path to the ordering system, thereby attempting to do all of the inputting collectively. Clinical pathes were completed for 14 disorders and efficiency was enhanced as a result.